

和歌山県の魅力発信 in 上海万博！！

2010年10月31日をもって閉幕となった上海万博ですが、これまで数多くの自治体が各自治体の有する都市の魅力を中国及び世界に向けてPRしてきました。そして今回、和歌山県が10月8日から10日の3日間にわたって「和歌山県の日」として、日本館イベントステージにおいてイベントを実施し、3日間で延べ40,000人の来場があり大いに賑わいました。今回はこの和歌山県の取組みを紹介したいと思います。

ちなみに、「和歌山県の日」初日の10月8日は、上海万博の累計入場者が5月の開幕から数えて6,000万人を突破した日でもあります。

「和歌山県の日」では3日間を通して和歌山児童合唱団による公演、物販販売、映像上映・パネル展示による観光地紹介などが行われたほか、10月8日には仁坂和歌山県知事によるPRが実施されました。

和歌山児童合唱団は、海外のコンクールで優勝経験を持つなど非常にレベルの高い合唱団で、この会場では延べ8回の公演を行いました。合唱団の中高生たちは浴衣姿でステージに現れ、日本語で日本のわらべ歌を合唱したほか、中国語による合唱も披露しました。

ステージ上の児童たちは真剣であり、そしてとても楽しげで、来場者も楽しげに歌う児童の歌声に熱心に耳を傾けていたことが印象的でした。公演の最後には、北京オリンピックテーマ曲である「You and Me」を来場者と一緒に歌うといった趣向が取り入れられており、来場者も大いに歌い会場は一体となって盛り上がっていました。

また、公演後には来場者と児童たちが一緒に写真を撮るシーンが会場各所で見られ、この公演に対する来場者の満足度の高さを窺うことができました。



和歌山児童合唱による公演



来場者との記念撮影

10月8日に実施された仁坂和歌山県知事によるPRは、PPTを活用しながら、「みなさん和歌山県をご存知ですか～」、「温泉は好きですか～」と来場者と語り合うようなアットホームな雰囲気の中行われました。

北京、上海、青島、香港等からは関西空港への航路があり、その関西空港から一番近い都市が和歌山県であることを説明したのち、和歌山県には世界遺産に登録されている高野山・熊野があり、そして温泉や白浜の綺麗な海など和歌山を代表する観光地をPRされました。さらに、梅干し、梅酒、豊富な果物などについても紹介するなど、和歌山県の魅力の一つひとつ丁寧に紹介されておりました。梅干しについては、疲労を癒す効果や血液がサラサラになる効果があるなどの紹介も行われました。

最後は、「見どころの多い、美味しい食べ物の多い、さらに健康になれる和歌山県に、皆様どうぞお越してください。」と締めくくり、来場者からの大きな拍手のなか終了いたしました。



仁坂和歌山県知事によるPR



PPTを活用した和歌山県PR

会場後方で実施された物産販売には、和歌山県の特産品である梅干しと梅酒の販売が行われました。日本館ステージの物産販売については規制が厳しく、手続きも少々煩雑なため躊躇する団体が多い中、自治体としては唯一和歌山県だけが物産販売に踏み切ったとのこと。販売コーナーには梅干し、梅酒ともに数種類の商品を取りそろえ、来場者の高い関心を買ひ、購入して帰る来場者の方も多くいらっしゃいました。



物産販売コーナー



和歌山県特産の梅干し

今回の和歌山県の取組は、和歌山県に対する来場者の好感度アップに大きく貢献したものであると思います。今回の取組みを契機として、中国からの更なる観光客誘致及び中国市場への県産品の販路拡大につながるよう期待したいと思います。